

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	Familyいっぽ白山教室（放課後デイサービス）				公表日	2025年1月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童数に合わせ、スタッフを配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		遊びや余暇活動が探しやすいよう、配置している。特性に合わせ、視覚化など検討しながら改善を重ねている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		子どもが活動しやすいように、ものの配置や内容を検討しながら改善している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要な時にはスタッフがついて別室で過ごせるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			毎日、当日の支援開始の前に情報共有と当日の計画を立て、終了後に振り返りを行い、必要に応じてノートでスタッフ間で情報共有している。また、月一回のミーティングにて情報共有をするようにしている。今後も全スタッフでの共有方法の検討と内容の充実をしていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			アンケートでいただいた意見を参考にさせていただいているが、日常のコミュニケーションの中でいただいたご意見より迅速に改善できるようにしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティング、アンケートで出た意見を適宜検討し、改善している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後の課題として検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月一回事業所内スタッフで研修を実施している。外部研修にも参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		多職種での評価と保護者へのアセスメントをもとに担当者会議を行い、計画立案をしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ミーティングにて、お子さまの様子を共有し、意見を出し合い、担当者会議にて意見集約をして計画立案をするようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			支援計画については共有しているが、日々意識して支援に取り組むことができるように、工夫していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			標準化されたアセスメントツールを使用しているが、共通理解につながるよう、全スタッフが理解しやすいアセスメント方法を検討していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			今後、移行支援、地域支援、地域連携により力を入れられるよう、検討していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月のテーマ、目標をチームで決定し、立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		月のテーマに沿ってプログラムを考え、行っているとともに、その日の利用者様の様子により方法を検討しながら行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用時に個別療育と集団療育両方に参加する機会を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日の支援開始前にスタッフでミーティングを行い、プログラム内容、目的、役割を確認している。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日の支援終了後、振り返りを行い、意見を出し合って今後の支援の確認をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			日々記録は行っているが、変化が追えるように記録方法を工夫していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。		○		地域交流の機会づくりについて、取り入れる努力をしている。余暇活動については利用者の興味を広げられそうなものを取り入れていきたい。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		すべてプログラム通りにすすめるのではなく、プログラムへの参加の仕方を選び、支援者に伝える、など自己決定することもプログラムに入れている。	わかりやすい選択肢の提示をするなど、子どもに合わせた選択できる機会を検討していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			担当者会議では学校との情報交換をしているが、医療、福祉との連携も行っていけるよう、方法を検討していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		同事業所内では情報共有できているが、他事業所や保育所などとはおこなえていない。今後、行う方法を検討していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	—		まだ該当者がいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		個別のケースで相談などしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		○		今後、どのように行えるか実施方法を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		今後、どのように参加していくかを検討していく。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時に子どもの様子、状況などの情報共有をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者とのコミュニケーション機会を増やし、情報共有や意見を出しやすい環境整備をおこなっている。	保護者が参加することができる講座や、資料配布など行っていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要時に声掛けをし、適宜面談などの対応を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者どうしが交流する機会を2～3か月に一度程度企画しているが、参加が難しい保護者、きょうだいが多い。	今後、日時の設定、内容を検討し、より交流しやすい企画をしていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		活動時の写真などをまとめ、施設内に掲示し、送迎時にみていただけるようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域との交流機会も作っていただけたらと考えている。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			マニュアルはあるが、今後様々な状況を想定した内容に改善していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			計画は策定しているが、今後、様々な状況に合わせた内容の訓練を行えるようにしたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回アセスメントにて情報収集している。	スタッフに周知していけるよう、工夫していきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在は該当者がいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			よりヒヤリハットを出しやすいよう工夫をし、多くの事案をもと業務改善をしていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修をおこなっている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			